派　遣　報　告　書（報告者；　佐田明美　）

大会名	第 17 回全九州大学春季バスケットボール選手権
開催地	福岡県北九州市
日　時	平成２４年　５月１２日　～　５月１３日
担当ｹﾞｰﾑ	（女子　準決勝）東海大学九州（熊本）ｖｓ福岡教育大学（福岡）
相手審判	主審・副審：　　佐田　・　藤城氏（福岡県）

ミーティング内容（主任：　湯浅氏（日本協会））

判定においてもベンチの管理においても難しいゲームであった。その中で審判の役割は何なのか。審判は両チームに対して『公平・公正』でなくてはならない。

第２ピリオド途中、東海のベンチテクニカルを宣した後、福教側に不利な判定が３つ続いている。テクニカルファウルを宣した後ほど、冷静に公正な判定をしなくてはならない。ハーフタイムでの東海大コーチの質問に対してはもっと手際よく対応すべきである。

プレゲームカンファレンスでは、細かいシチュエーションまで互いに確認しておくべき。ゲーム終盤のタイムアウトの際も具体的なプレイの打ち合わせができていないようだった。常に次のプレイを想定した互いのコミュニケーションが必要である。

ゲーム中、ファイルを宣した後、毅然とした態度でレポートしたほうが良い。いい判定をしていても、周囲から見ていて自信なさそうに見える。

このゲームの経験をどう生かすかが次のステップになる。

今大会に参加しての感想など

今年度、第１回目のＡ級査定会でした。日本協会から湯浅氏、平氏を招聘し、ゲーム後にアドバイスをいただくことができました。平氏からの「常に最悪を想定して、いい判断ができる位置に動く」という言葉や各県から派遣されたＡ級候補の方々の高い意識に触れ、自分自身いい刺激になりました。また県内では吹くことのできない学生のゲームを担当することによって、まだまだバスケットボールの技術の理解が足りないことを痛感しました。次回、７月に行われる第２回の査定会には今回の課題を少しでクリアして臨みたいと考えています。

今年度、Ａ級候補として派遣していただいた大分県バスケットボール協会、指導していただいた日本協会の湯浅氏、平氏、各県審判長、お世話いただいた福岡県バスケットボール協会、九州学生連盟、九州各県の審判員の方々に深く感謝いたします。